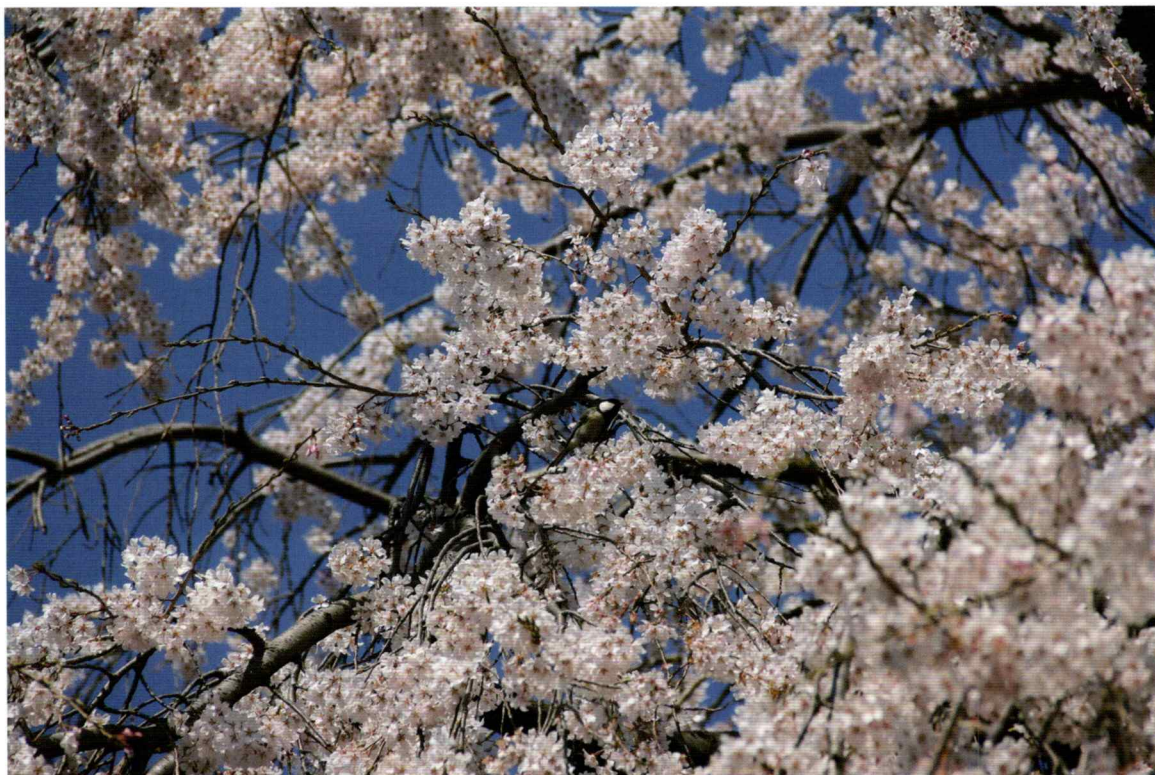



**府中地区保護司会だより**  
 第52号 発行 府中地区保護司会 会長 高野佳子



**ご挨拶**

府中警察署長 **小高博之**



この度、令和四年十月十七日付で、交通部駐車対策課から府中警察署長として着任しました小高です。どうぞ宜しくお願い致します。

府中警察署は署創立が明治二十六年四月一日であり、本年で百三十年を迎え、私が一〇二代目の署長となります。この歴史と伝統ある府中警察署で勤務できることについて、喜びを感じるとともに、身が引き締まる思いです。保護司の皆様におかれましては、平素から更生保護活動にご尽力をいただくとともに、警察業務に対するご支援、ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の都内の犯罪情勢ですが、刑法犯の認知件数は平成十五年以降減少傾向にあり、十年前に比べると約六割減となっております。一方、刑法犯検挙人員に占める再犯率は約五割と大きな割合を占めております。また、少年の犯罪情勢についても認知件数や補導件数も減少傾向にある中、強盗やひったくりなどの凶悪犯罪をした犯罪少年の四割近くが再犯者であります。犯罪をした者と正面から向き合い、心と心を通わせて正しい道に導く保護司の皆様の果たす役割は大きく、そのご苦労も多いものと拝察致します。今後も警察は地域の皆様のご協力をいただきながら、各種犯罪防止、検挙活動を推進して参りますので、保護司の皆さまにありましても変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。結びになりますが、府中地区保護司会の益々のご隆盛と会員の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、着任の挨拶とさせていただきます。

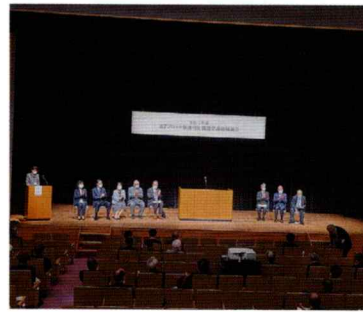
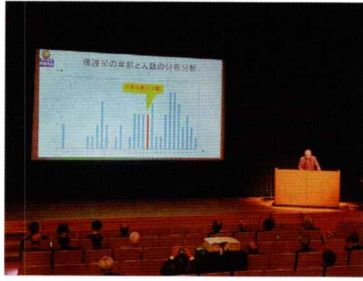
令和四年度 第7ブロック  
保護司組織運営連絡協議会に出席して

研修部 奈良 元俊

令和4年10月27日、小平市の「ルネこだいら」において、標記協議会が開催されました。コロナ禍で、前回、前々回とリモート会議に依らざるを得なかったのですが、今回3年振りに対面による協議会が行われました。

当番地区は、北多摩北地区保護司会で、今回のテーマは①保護司適任者の確保②サポートセンターの現状と課題③保護司の考えるデジタル化・省力化という3課題でした。府中地区を含む5地区からテーマに沿った意見発表があり、活発な質疑応答と全体協議が行われました。

府中からは、杉浦渉保護司により前記①と②の2テーマについて意見発表がなされました。市川耕作保護



司作成によるパワーポイントを使用した分かりやすい発表でした。特に注目度が高かったのは①関連で、府中が行っている「保護司候補者検討協議会」についてでした。他地区の方々から、同協議会設立の経緯や構成メンバー、同協議会経由の保護司の人数などについて活発な質疑が寄せられました。

本協議会出席は初めての経験でしたが、今回の協議会の3課題はいずれもこれからの保護司会活動にとって重要なテーマであると感じましたし、また、分區を置かざるを得ない他地区の方々のご苦労や現状を知り、保護司会活動への認識が深まったように感じた次第です。

実務研修会

刑務所風土と「外の力」

講師  
元法務省矯正局長  
西田 博 氏



西田 博 氏

令和4年11月16日(水)、府中市市民活動センタープラッツにおいて、元法務省矯正局長の西田博氏による講演(刑務所風土と「外の力」)があった。刑法改正により3年後には、懲役刑と禁錮刑が拘禁刑となり、所定の労働(懲役刑の場合・刑務作業)が課せられる刑罰から、個々の特質に応じた改善処遇を主体とする刑罰となる。改善処遇を主体とするための諸方策が検討されているが、

「外の力」との連携・協同がないことには、これを実効あるものとして実現することは不可能であろう。保護司が「外の力」であることにほかならず、連携・協同が体制化されていくのかもしれない。西田氏は、再犯防止には、「文化・風土」が必要であり、加えて「外の力」によるものが大きいという。今後、保護司に寄せられる期待はどのような形となり、また、制度改革のようなものがあるのだろうか。保護司はどのように対処していくことになるのか。時に思いを馳せてみるのもいいかもしれない。

研修部 齋藤 巧



# 「公開講演会」3年ぶりに開催

## 「生きづらさを生きていく」

地域活動部 市川 一徳

府中地区保護司会と府中地区更生保護女性会による公開講演会が12月8日（木）バルトホールに於いて「生きづらさを生きていく」～刑務所に戻りたくない～と題して、府中刑務所分科審議室首席矯正処遇官・宮崎悠華氏が講師に招いて開催された。

受刑者が刑務所内で規則正しい生活をする中で、作業を中心とするほか、社会生活に適応する為に必要な知識や生活態度を習得させるための一般改善指導と、各犯罪種類別による特別改善指導がある。これらのプログラムにより、受刑者のこれまでの問題に正面から向き合うことを通



宮崎 悠華 氏

して、担当者（職員）や他の受刑者との信頼関係を築くなど、再犯防止のスキルを学び、社会復帰に向け取り組んでいる。

一方、二度と刑務所には戻らないと決意して出所するが、住むところがない、仕事が見つからない等の理由で、決意が揺らいでしまう者もいる。また、自分しか信じるものがない、生きづらいから助けてと言いつらい、周囲に誰もいない、世の中から取り残されているなどと感じていることについて、具体的に「マズローの欲求階層説」に当てはめてわかりやすく教示していただいた。

生きづらさは人それぞれであり支援側の価値観を押し付けてもうまくいかないこと、刑務所での厳しい規律による強制指導への抵抗感から、かえって支援者から離れる。しかしながら、状況を見極めて対処を考えて行動するといった自主的に行動する力は不足している。刑務所では規則正しい生活ゆえ、自立性、主体性



ということについては課題である。講演会に参加して、これからも対象者がどう思っているか、どう考えているか、どう生きたいのか、再犯しない生き方に向け、努力を続け、能力を発揮して行けるように、希望や悩みに耳を傾けて後押しして行きたい。

# 更女の活動

府中地区更生保護女性会

会長 奥田 美津子

令和四年度より西谷照代前会長の後任を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い致します。日頃より保護司会の皆さまには更女の諸活動にご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大により活動も制約を受けておりましたが、五月、三年ぶりに総会を開催する事ができ、新体制での活動がはじまりました。地域活動部は学習会「国際理解・国際貢献」を開き、道徳授業の課題を学びました。「道徳授業参観」は府中第七中学校で開催されました。研修部は研修会「更生保護女性会とは」を実施し、改めて更生保護について学びました。広報部は広報紙「府中更女だより」第二七号を発行。ぜひご覧下さい。また「福祉まつり」がげやき並木他で開催され、更女は初めて物品販売（会員の手作り作品）をし、PR活動ができました。令和四年十二月には保護司会と「公開講演会」を共催しました。これからも会員の皆さまと明るく楽しく活動をして参りたいと思います。



令和3年からの第4次地域福祉活動計画では「わがまち支えあい協議会」の推進により、地域福祉活動計画に沿って事業を進めており、平成27年から令和2年度の第3次地域福祉活動計画の重点目標を掲げて活動してきました。おかげさまで、令和3年4月に市内11か所の文化センター圏域でわがまち支えあい協議会が立ち上がり、また、各文化センター圏域に1名ずつ地域福祉コーディネーターの配置をする計画も実現できております。

## 府中市社会福祉協議会(以下府中社協)の活動について

社会福祉法人 府中市社会福祉協議会  
地域活動推進課まちづくり推進係長 和田 有美

「協議会の推進」の拡充を重点目標としております。わがまち支えあい協議会とは「地域にある課題や心配事を、地域にいる人たちが自身でキャッチし、その問題について様々な立場の方が集まって話し合い、解決方法を考え、地域でできる活動を生み出す」仕組みです。「気づく・動く・つながる みんなが主役！地域で支えあうまちづくり」を基本理念とし、地域の身近なところで様々な生活課題を解決するための仕組み作りを通じて、制度の狭間の課題や複合的な課題を抱えた方の個別支援や地域支援に取り組んでいます。

貴会の支援対象者など、様々な困りごとを抱えて生活されている方々へ伴走型の支援を行ってまいりますので、今後ともかわらぬご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 暮らしの困りごと相談会

無料/予約不要/毎週開催

不安だな... 誰かに話を聞いてもらいたいな...  
これってどこに相談したらいいの?  
お気軽にお立ち寄りください

府中市地域福祉コーディネーターがお話をお聴きし、解決に向けて一緒に考えます。お気軽にお立ち寄りください。

開催時間	月	火	水	木	月・水・木	月・木・金
9:15 ～ 11:45	中央文化センター			片町文化センター 西府文化センター	新町文化センター 9:30 ～ 16:00	住吉文化センター 9:30 ～ 16:00
13:30 ～ 16:00	武蔵台文化センター 紅葉丘文化センター		白鳥台文化センター 星政文化センター	押立文化センター 四谷文化センター		

※祝日はお休みです ※その他変更になる場合があります  
※訪問による相談や、ふれあい会館での相談も受け付けます。お気軽にお問合せください。

問合せ 社会福祉法人 府中市社会福祉協議会  
地域活動推進課 まちづくり推進係 コーディネーター担当  
府中市府中町1-30 ふれあい会館2階  
TEL:042-334-3040 FAX:042-362-9090  
メール: fuwari@fisyakyo.or.jp

## 第42回福祉まつり

広報部 中込 八重子

府中市社会福祉協議会主催の第42回福祉まつりが三年ぶりに10月16日(日)けやき並木通り及びペDESTリアンデッキで開催されました。来場者数は約16,800名で参加78団体・協賛36団体・協力22団体でメインステージ及びボランティアステージでの催し、福祉団体・施設・企業等による展示PRブースもありました。保護司会はペDESTリアンデッキにて更生保護女性会と同じテントで、通行人の方に保護司PRのセットとして社明推進大会の資料やポケットティッシュ等を配布し、子



どもさんにはぬりえを配布しました。今年の福祉まつりは府中公園から府中駅前へ場所を変更して実施され気候もよく人通りも多くとっても楽しい福祉まつりでした。来年も感染対策に留意して盛大に開催出来る事を願っています。

# 中学生にとつての社明

## ―応募作品から読み取れるもの―

学校との連携委員会副委員長 杉浦 渉

▼第72回社明作文コンテストに、今年度は7校から71点の応募がありました。このうち4校の4作品を東京都の推進委員会に推薦しました。

▼応募者は3年生5名と2年生66名でした。いずれの作品も犯罪や再犯防止、そのための社会のあり方などの難しい課題について真剣に考えていることがうかがえ、好感を覚えるとともに頼もしく思いました。

▼扱われている題材のうち特徴的なものを挙げます。「SNSと言葉」「クリエイターと視聴者」「それ、本当に送るべき？」などのタイトルからは、SNSをめぐる切実かつリアルな問題意識が読み取れます。

▼一方で、「違いを認める」「まずは相談して」「知ろうとする努力」「自分でできること」などからは、日常生活における態度や人間関係のあり方に着目して、よりよい社会の礎を築こうとする真摯な姿勢が

読み取れます。

▼『社会を明るくする運動』といっても、中学生にとつては漠たるものでしょう。その課題について、自らに引き付けて考えようとするその姿勢こそ尊いものだと、改めて思いました。

受賞おめでとうございます

第72回「社会を明るくする運動」作文コンテスト

犯罪や非行を防止し、  
たち直りを支える  
地域のチカラ

東京都推進委員会の審査結果が発表されました。

【佳作】

府中市立浅間中学校

2年 荒井 菜ノ花 さん

【奨励賞】

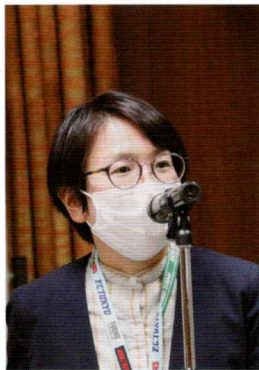
府中市立府中第七中学校

# 中学校生活指導主任会 と保護司との懇談会

学校との連携委員会委員 矢島 千里

令和4年11月1日府中市立教育センター会議室において、令和四年度生活指導主任会と保護司との懇談会が開催されました。

開会のご挨拶の中で、子ども達を取り巻く環境がコロナやSNSで大きく変わり、保護者との関係も難しく、不登校が確実に増えてきている、というご指摘がありました。それを受けられたら今回のテーマ「生きづらさに伴う諸問題」について、府中市教育委員会教育部スクールソ



スクールソーシャルワーカー  
片平 美乃里 氏



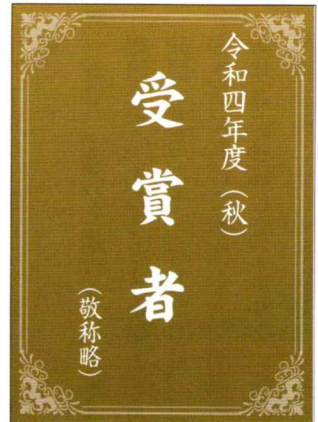
保護観察官  
坂本 幸美 氏



シャルワーカー（以下SSW）片平美乃里氏と、東京保護観察所立川支部保護観察官坂本幸美氏からお話を伺いました。

片平氏からは学校でのSSWの役割、不登校の現状要因と周辺機関と連携した好事例をご紹介いただき、坂本氏からは保護観察事例で、不登校になり犯罪に至った経過から保護観察解除までの具体例をお話いただきました。その後小グループに分かれ参加者同士の活発な意見が交わされました。

今回は懇談会発足から20回目の開催でしたが、コロナ感染拡大が心配されるなか会場での開催ができ、36名の参加者で有意義な時間を共有できました。



府中地区保護司会

法務大臣表彰

加藤 茂

全国保護司連盟理事長表彰

三浦 智恵美

関東地方更生保護委員会委員長表彰

小川 晴美

杉浦 渉

隆 ミワ子

田中 陽子

内藤 治

奈良 元俊

古川 耕央

若松 正子

関東地方保護司連盟会長表彰

市毛 彰

関口 直子

藤井 幸夫

前田 久美子

東京保護観察所長表彰

市川 勉

東京都保護司会連合会会長表彰

林 宏至

東京保護観察所長感謝状

住崎 岩衛

家族功労 北島 美都子

府中地区保護司会永年在会

二十年 山本 裕章

十年 伊藤 ゆきえ

秋山 勤

杉浦 渉

隆 ミワ子

内藤 治

奈良 元俊

若松 正子

府中地区更生保護女性会

関東地方更生保護委員会委員長感謝状

北村 のぞみ

東京保護観察所長感謝状

秋山 ヨリ子

那須 史子

東京更生保護女性連盟会長表彰

上保 育代

隆 ミワ子



法務大臣表彰を受賞して

加藤 茂



この度は令和四年度法務大臣表彰を受賞しまして、大変光栄に存じます。保護司の仕事は、なかなか苦勞が多く、それを間近で見てきた家族・従業員が「誇りに思う」と皆が喜んでくれたのが嬉しいです。長い間大勢の方と巡り会えて話が出来、連携が取れてとても楽しい時間でした。保護司活動に不安を持っていた時も仲間が支えてくれました。この間多くの仲間が出来幸せに思います。これからも出来得る限り保護司活動を務めて参りたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

令和四年度 東京更生保護事業関係者 顕彰式典

三浦 智恵美

令和四年十一月二十九日(火)かつかシンフォニーヒルズで、東京更生保護事業関係者顕彰式典が開催されました。清興は、葛飾区立葛飾

小学校六年生による金管バンドの、リズムカルで元気が出る四曲のすばらしい演奏を聴きました。式典は、国歌斉唱・天皇陛下のおことば奉読のあと顕彰がおこなわれました。

府中地区からは、春の叙勲の西腰美恵子氏をはじめ法務大臣表彰・全国保護司連盟理事長表彰・関東地方更生保護委員会委員長表彰・関東地方保護司連盟会長表彰・東京保護観察所長表彰・東京都保護司会連合会会長表彰・東京保護観察所長感謝状(家族功労)など20名が表彰を受けました。次期開催地は、台東区浅草とのことで台東区保護司会会長の挨拶があり、式典は終了しました。



令和四年度市民表彰 社会福祉功労(敬称略)

野口 良子

# 「ハローワークと更生保護」

ハローワーク府中  
所長 佐藤 慎也



府中地区保護司会の皆さまには、日頃から当所の業務運営にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

平成18年に法務省と厚生労働省の連携による再犯防止対策として開始いたしました刑務所出所者等就労支援事業も、皆さまのご協力のもと今年度で17年目を迎えた次第です。

ハローワークでは「再犯防止推進計画」を踏まえ、刑務所出所者等就労支援事業を通じ、出所者等が地域社会の一員として社会復帰できるよう、出所後の就労の確保だけでなく、長期雇用につながるよう定着支援、協力雇用主に対する受入要請等にも取り組んでいるところです。事業開始以降、当所においても毎年100名程

度（東京全域では毎年10000名程度）の出所者等の支援を続けております。

近年は、犯罪件数の減少に伴い支援対象者も減少傾向にあるものの、年代も20歳代から60歳代、また同一罪名再犯者、依存性の強い犯罪、障害を持つ者など対象者も幅広くなっており、支援活動にはこれまで以上に関係機関と綿密な連携が必要な状況となっております。

出所者等の再犯を防止し改善更生を図る上で、就労の確保が極めて重要であることは言うまでもありません。これからも、保護司会の皆さまのサポートをいただきながら、矯正施設、更生保護機関との連携も強化して、一人でも多くの出所者等の就労の確保、並びに定着支援に尽力し、再犯防止に向けた取組を推進してまいります。



# 府中警察だより

生活安全課少年第一係長  
石井 智子



警視庁のシンボルマスケット

「ピーポくん」をご存じでしょうか。ピーポくんは、都民と警視庁のきずなを強めるため「親しまれ、信頼される警視庁」をテーマに、人々の「ピープル」と警察の「ポリス」の頭文字をとって命名され、昭和62年4月17日に誕生いたしました。今ではすっかりお馴染みのキャラクターとなり、子どもたちに大人気のピーポくんです。

ピーポくんの大きな耳と大きな目は、都民の声を幅広く聞き、社会のすみずみまで見渡すためのもの、そしてアンテナは社会全体の動きを素早くキャッチするためのものです。年齢を重ねたピーポくんですが、その能力は変わりません。今も、そしてこれからも、ピーポくんは警視庁の全職員とともに都民の皆さんの「いつでも安全、いつまでも安心」の実現に向けて日々全力で活動して参ります。



## 府中地区保護司会コラム⑬

### risicare

森岡 潤家

学生時代から時を経て再び剣道を始めることを、「リバイバル剣道（リバ剣）」と呼びます。私も府中六中の剣道部から26年ぶりに41歳でリバ剣となりました。

剣道を再開するには遅すぎるかな？と気後れしていた私の心に、保護司になる前に大先輩から頂いた「始めようと思った時がスタートだ!」という励ましの言葉が残っておりました。初段から再開した剣道は、6年目の昨年11月に四段に昇段するに至りました。

お題のラテン語は、現代ではマイナス表現で使用されることの多い英語の「リスク」の語源と言われ、元々は「勇気を持って試みる」という意味があったそうです。

変化が速く、新分野への挑戦や未知への不安が多くなっていく現代社会において、年齢を重ねても失敗を恐れず、何事にも勇気を持って前向きに取り組める自分でありたいと思う今日この頃です。



### 他山の石として

サポートセンターふちゅう  
運営委員 杉浦 渉

と工夫が求められると思う。

#### 各部・委員会活動との関連を

サポートセンターの現状と課題について、他地区の様子を知る機会があった(\*)。このことからわが地区のサポセンのありようを相対的に考えることができるように思う。

\*第7ブロック保護司組織運営連絡協議会・10月27日・小平市にて

#### サポセン機能の一元化という利点

北多摩東、北多摩西、調布・狛江、北多摩北の4地区はいずれも複数の分区分からなる。従ってサポセン分室(サテライト)の設置と運用が重要課題となっている。その必要がない本地区では、サポセンの運営と活用を一元化し易い利点がある。この利点を自覚的に生かしたいと考える。

#### 駐在と企画調整保護司業務

このふたつの業務をうまく組み合わせられないか、これが本地区の意見書のテーマである。法務省のHPには、企画調整保護司として期待される業務が列挙してある。しかし、これらを日々の3時間の駐在業務の中で効果的にこなすには発想の転換

受賞おめでとうございます

本地区の「サポートセンター運営規程」(R4・2・28施行)で、サポセン事業として列挙してある内容は各部・委員会の活動とかなり重なり合う。サポセンを部会や委員会の会合の場として活用するだけでなく、活動の内実をも包み込む機能を持つサポセンでありたいと願う。

#### 令和4年度

#### 東京都薬物乱用防止

#### 標語の部

応募数37,595作品の中から府中の中学生が最優秀賞に選ばれました。

府中市立府中第四中学校

3年 浅野 新平 さん

思い出せ 大事な人の その笑顔

手を出さないで 危険薬物

### 計 報

毛塚 邦明 氏

令和四年十月二日逝去  
享年七十七歳  
心よりご冥福をお祈りいたします

### 活動日誌抄

- 9月 都薬物乱用防止推進地区協議会
- 10月 保護司候補者検討協議会  
多摩連常任理事会
- 11月 第7ブロック組織運営連絡協議会
- 12月 東京更生保護事業関係者顕彰式典  
多摩連表彰祝賀会  
社会福祉協議会理事会  
第2回東京保護司代表者協議会  
府中市民生委員推薦会  
多摩連常任理事会
- 1月 新年賀詞交歓会  
むさし府中青年会議所賀詞交歓会
- 2月 東保連第一委員会  
府中地区更生保護女性会親睦会  
社会福祉協議会理事会  
多摩地区保護司全体研修会
- 3月 第3回東京保護司代表者協議会  
社会福祉協議会理事会  
多摩連各部会  
多摩連常任理事会  
令和四年度四者連携強化研修

### 編集後記

ここらと体のリフレッシュのため  
に妻と一緒にボウリングをしています。  
毎週木曜日に24人の方が集い、  
一日3ゲームを行い気持ちの良い汗  
を流しています。ストライクが取れ  
たときはとっても爽快です。ガーター  
でいじけると仲間から真剣なアドバ  
イスがあり、人と人との繋がりを強  
く感じます。ボウリングは個人競技  
の方なのですが、ゲームを通じて多く  
の先日、子供や孫とも一緒にボウ  
リングをしました。家族でのボウリ  
ング談義も増え、家族が一段と近づ  
いた気がしています。保護司会だよ  
り一面の写真は市内東郷寺の山門枝  
垂れ桜で、花言葉は「精神美」「純潔」  
だそうです。世界平和を願い咲く桜。  
散策してみても良いでしょう。多  
くの人の出会いもあるかも。

吉野 博文

### 広報部

部長	室 惇子	吉野 博文
副部長	隆 ミワ子	古川 耕史
書記	田中 節子	中込八重子
会計	前田久美子	石塚百合子
部員	赤塚 正垣	矢島 千里

題字は高野市長の揮毫によるものです  
表紙の写真「東郷寺の桜」

撮影 広報部 古川 耕史